

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3393600063		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホームたいら金時		
所在地	〒709-4334 岡山県勝田郡勝央町平1119		
自己評価作成日	平成29年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393600063-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393600063-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年11月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

第2の我が家として笑顔で穏やかな生活を支援してきましたが、加齢に伴い身体機能・下肢筋力低下が顕著となり少しバランスをく崩すだけで転倒に繋がる人もあります。認知症ケアの基本食事・水分・排泄に少し負荷のかかる運動を取り入れる事で高齢になっても筋肉を鍛える事が出来、認知症の進行を抑える事が出来る、筋肉がつく事で不安なく動作が行え、自分で出来たという成功体験を重ねる事で自信となり活動範囲が広がるという事です。今後のレクリエーション・日常生活の中で少し負荷のかかる楽しい運動を取り入れる事により転倒予防を図り、元気で明るい生活を支援出来ると職員チームケアで頑張っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は、利用者や職員が穏かに過ごしてくれる事を願い支援に努めている。その思いは要所要所に表れている。利用者同士にトラブルが生じた際は、利用者と二人きりになれる時間を作り、傍らに寄り添いながら思いを聞いている。職員に対しても楽しく仕事をして欲しいと考え、提案は出来る限り聞き入れている。さらに家族の思いも会話の中から汲み取っている。日頃から「母親と一緒にドライブに出掛けたいが、出先で世話が出来ると不安」と言われる家族には、外出行事に誘い一緒に参加してもらった。また家族と疎遠の場合は、互いを思い遣っている気持ちを手紙にしたため家族に送ったり、利用者に伝えたりし、良好な関係継続支援に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 “第2の我が家” として自分らしい生活を送る事が出来る様に支援します。を玄関に掲げる、共に職員会議・普段の業務の中で職員に周知・共有し実践しています。	理念である「第2の我が家」を目指し、生活習慣の継続を心掛けている。例えば、朝食時間を決めず、無理やり起こさないようにしている。さらに穏かな日々を過ごして欲しいと考え、利用者の思いに寄り添った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開かれた施設として地域の人との交流は大切にしています地域の方のボランティア・愛育委員の受け入れ・芋煮会幼稚園児の来訪又文化祭へ作品出品等々、今後も関わりを持ち地域のグループホームを目指します。	芋煮会は地域の参加を呼びかけ、通りすがりの人達にも寄ってもらっている。今年は雨が降り、室内での実施となったが、狭い空間が功を奏して、家族や利用者が近所の方達と会話をする良い機会となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	愛育委員の視察・中学生のボランティアを受け入れ利用者様の日中の様子を見て頂き、グループホームの役割について質問を受け地域のの人に認知症の理解を推進しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、家族様(3~4名)・区長・民生委員・市町村に召集をさせて頂き、利用者様の様子や行事報告、予定を報告をし、意見、要望を聞かせて頂きサービス向上に反映しています。	参加者に運営の状況を伝え、質問を受けたり、意見交換をしたりしている。「小学校の運動会に参加したい」と伝えた時、出席者から「駐車場が狭い為、保育園との交流の方が良いと思う。」等の意見をもらい参考にした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催で、半年に1回程度地域密着型生活介護管理者会議があり、情報交換をしています。 グループホーム主催の運営推進会議に参加を要請し、情報交換・交流をしています。	地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加してくれ、利用者が安全に暮らせるよう病気が流行った時等、徹底して注意喚起してくれる。事業所の取組を賞賛してくれたり、指導してくれたり等、よく関わりをもってくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修参加、職員会議で研修報告、身体拘束防止について周知しマニュアルを事務所に設置し職員がいつでも閲覧できる様にしています。	職員会議の場で、「身体拘束は相手の立場に立って考えたら、絶対に出来ない行為である。」と互いに話し合っている。利用者には思うように過ごしてもらい、自由にベランダにも出入りしてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について周知し虐待防止マニュアルを事務所に設置しています 岡山県主催の虐待防止研修会への参加。 日頃から事業所内で虐待が起こらないよう細心の注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度・日常自立支援事業や成年後見制度については現在は、該当者はいませんが、今後どのような対応も出来る様に研修対応していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には利用者様、家族様に十分な説明をさせて頂き理解、了解はして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時に家族様より意見・要望を聞かせて頂き、徐々に信頼関係も出来、多くの意見を聞かせて頂ける様になりサービス向上に繋がるようになっていきます。	日頃の家族との会話から、家族の思いを汲み取り、叶えられるように努めている。「ドライブに連れて行ってあげたいけど介助が出来るか心配」と言われていた家族には、秋のドライブ旅行に誘っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、職員会議で、意見交換、提案を聞き業務に生かし、より良い住まいを作っていきます。	縁あってこの事業所で働いてくれている職員の思いを大切にしている。管理者は職員の提案を即座に否定せず、利用者が喜ぶかどうかを基準にして判断し、直ぐ出来る支援は実行してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状態を把握し、必要時に意見、話し合いの機会を持ち、各自が向上心を持ち働ける環境・職場作りに努め、意見を言い合える雰囲気・環境を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や性格により個人差があり、施設職員全体のレベル向上を目指し、日頃の業務の中研修・指導・勉強会をしています。外部研修は出来るだけ参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回多職種連携研修会があり、同業者・医療・ケアマネ・薬剤師それぞれの専門的立場で困難事例について勉強、意見交換、交流を図り、持ち帰り、施設内に周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接時には良い印象を持って頂けるように丁寧な対応を心掛けています。 困っている事等の要望は散歩等の個別時間で聞かせて頂き、信頼関係を構築するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面会時、介護計画説明時には、笑顔で真摯な姿勢で対応させて頂く。 家族の方の要望も聞かせて頂き、家族様への支援にも心を配ります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と利用者様の要望をそれぞれ聞かせて頂き、すり合わせをしながら、その時の優先順位は何かを考え支援計画を作成させて頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と共に過ごし支えあう関係は施設として目指す所で、利用者様は人生の先輩であり教えて頂く所は多くあります。共に生活をさせて頂ける関係を築きたいと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が出来る事、医療が出来る事、家族様しか出来ない事がありますが普段から3者の信頼関係を保ち連携して利用者様・家族様を支えていきたいと常に考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアの訪問、幼稚園児の訪問等があり、芋煮会で地域の人との交流を図っています。 面会の少ない家族様には面会の依頼をしていますが、ほぼ面会が多い方だと思います。	どの家族もよく訪れてくれている。県外在住の家族が3カ月に1度面会に来て、利用者と一緒に自宅へ泊まってくれている。家族と利用者の双方に思い遣っている気持ちを伝え、良好な関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のように暮らしていますが、その中で孤立する人がないように配慮し、声掛けをさせて頂く中、お互い出来る人が出来ない人の世話をしたりと皆様の関係は大変良いと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様方から葉書届き、ご利用者様の様子を聞かせて下さり、こちらからも交流を図らせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望を聴き思いに気付く、その人らしい生活が出来る様に努めています。特にその人の生活リズムは大切にしています。	穏かに暮らして欲しいとの思いで、利用者に寄り添い話を聞いている。利用者から「頭を冷やしたい」と言われれば、一緒に事業所周辺を歩き思いを汲んでいる。将棋好きの利用者の為、現在区長に将棋相手を探してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、家族様関係、病歴等をフェースシートに残し、サービス経過等個人様ファイルに閉じ職員への周知をしていますので職員は把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々、出来る事はして頂きながら自分らしい生活が出来るように支援、出来る役割を決め自信を持って生活が出来る様に支援をさせて頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設内担当者会議で本人様の出来る事、家族様の要望を聞き計画に繋げるようにしています。個々皆さんが有する力を発揮出来る環境作りで活動範囲を広げていきます。	面会時に利用者の状況を伝え、「どういう風に暮らしてもらいたいか」を尋ね、介護計画に反映させている。介護計画を変更する際は、居室担当者に意見を聞きながら作成している。職員会議の際、介護計画をコピーして職員に渡し、支援内容を再度確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践・結果・気づき等は個別記録に記録し、職員会議の場・普段の業務の中で話し合い、今後の介護計画書に反映するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の体調・状況も違い、暮らしの要望・家屋様の要望を考慮し、希望に沿った支援で穏やかな生活が出来る様に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアに要請、来訪して頂き交流、地域で取れた食材を使い芋煮会を開催し、沢山の地域の方・家族様との時間を楽しんで頂いたり、町主催の歌謡ショー・文化祭等に外出したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の要望で在宅からの主治医を継続されている人、又施設の連携医に変更された人さまざまです。受診、往診あり。受診は緊急時以外は家族様対応です。	入居時に主治医の変更を勧めたりせず、いままでのかかりつけ医を受診支援している。ほとんどの主治医が往診に来てくれるので、利用者の状況を直接伝えることができ、医療面の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/W訪問看護あり、ご利用者様の様子、気になる事を相談し、利用者様の異常時にも対応、指示・必要時には来訪もあり、24時間対応をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を提出し連携を図り、定期的に面会に行き医療関係者と状態の説明を聞かせて頂く。退院時には添付書を頂き安心して元の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の人の入所も多く、本人様・家族様と話し合いながら、医療と連携しチームで支えています。施設で出来る事の説明を家族様にはさせて頂き、まだターミナルのご希望がないですが、今後は、自然な形で終末期支援もあると思います。	管理者は、医療の必要がなければ、「第二の我が家」であるこの事業所で最期まで世話をしたいと考えている。重度化した場合は、家族と本人の意思を確認しながら、医師と連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるに支援したいと思っている。	看取り支援を経験した事が無い職員が多く、終末期の対応について不安を感じている。研修の回数を重ねて、不安解消に努めて欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、その都度の対応が出来る様に、定期的に研修・演習をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつ発生するかわからない為、今後ご利用者様の安全な生活確保の為、災害時の対応研修に参加、全員が対応出来るよう又地域の人に避難訓練への参加をして頂いています。	避難訓練を実施する際は、区長が町内の方に声を掛けて一緒に参加してくれ、利用者の誘導を手伝ってくれている。災害時には、近隣の方にも協力要請をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場に立ち、優しい介護を基本として、周知していますので、出来ていると思います。今後も尊厳を守り自尊心を傷つけないようにして精神的に安心・安定した生活の支援をします。	職員は、利用者を大切なおお客様であると認識し、丁寧に接している。管理者は利用者に対する語調が荒い時は、その都度注意をしている。利用者を見守る際も、手を後ろに組んでいた横柄な態度に見えるので、手は前に組むようにと指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、入浴時に衣類選び、他の事にも自己決定が出来るような言葉の工夫をしています。自分の家で生活をしているように、自由に時間を使って頂き、自分らしい生活を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念第2の我が家として自分らしい生活を送れるよう利用者様の生活歴から昔得意だった事が自信を持って出来るように支援しています。(料理・野菜作り・塗り絵・歌等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お誕生日・外出時には一緒に衣類選びをさせて頂き「綺麗ですね」「素敵ですね」等ささいな事にも気づきおしゃれをする気持ちを忘れないように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみである為普段から食べたい物の把握をし提供しています。又季節の物を提供しよう心掛けています職員と一緒に準備食事を楽しく和気あいあいと楽しめるようにしています。	お茶の時間に、何が食べたいか利用者に聞いて、献立の参考にしている。昔食べたことがある食材を使っておかずを作り、五感で懐かしんでもらっている。おやつも手作りで、家族からもらった野菜や果物も材料として使われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を聞きながら、食事量、水分量摂取表に記録し、職員全員が一日の水分量を把握し、水分摂取量の少ない利用者には何回かに分け色々な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアは確実にこなしています。自立支援継続の為口腔ケアがしやすいように工夫・準備をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して、個人の排泄パターンは職員が共有出来るようにしています。 なるべくオシメにならないように、夜間もトイレ誘導でトイレでの排泄を促しています。	利用者の尊厳を大事にし、トイレでの排泄支援をしている。利用者の兆しを見逃さないように努めている。安全面に配慮しながら、側で見守りが必要ない場合は、落ち着いて排泄が出来るよう扉の外で待機をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、レクリエーションでリズム体操を取り、又十分に水分・食事が摂れるように予防に取り組んでいます。(牛乳・ヨーグルト等) (便秘予防には、運動・水分・食事が重要)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今は週間予定表で入浴を提供しています。入浴回数は利用者様により違いますが、お風呂の好きな人には回数を多くしています。	一対一で話しがゆっくり出来る機会と捉え、時間を掛けて入浴支援をしている。いきなり髪や体を洗うのではなく、「これから〇〇を洗います」等、説明をしてから行動に移し、安心して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を尊重しています、起床時間・朝食時間はさまざまですが、昼食・夕食は全員で食べられます。入眠も個々の時間に沿って対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、処方箋は職員がいつでも確認出来る事務所へ保管しています。今後職員会議等で服薬支援の勉強会も取り入れていきたいと思えます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事は個人ファイルに記載し職員が共有しています。得意な分野又は、出来る事の範囲で生活の中で役割を持って頂き生き生きと生活が出来る様に支援させて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には近くを散歩し近所の人との交流があります。 家族様との外出有り。 季節行事(お花見・紅葉狩り・ドライブ・初詣の支援)をしています。	入所する前から散歩が日課だった利用者には、入所後も一緒に事業所をぐるりと歩いている。利用者から「気分転換に外へ出たい」と言われれば、一緒に外の空気を吸いに行く。利用者が全員参加出来るよう、近場へ花見に行ったり、ジャンボタクシーを借りて紅葉狩りに行ったりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の個人持ちは希望がなく、家族様が金銭管理をされており、必要な物を購入して持って来られています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は電話が出来る様に、又手紙のやり取りが可能な方には支援しています。 毎月利用者様の様子を家族様に手紙でお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかな生活が出来るように天気の良い日はベランダ・庭に自由に出られ野菜花作り又お茶をしたり、ホール内は季節を感じられる展示物をしています。ホールは南向きで明るく開放感があり憩いの場になっています。	職員は、梅、桜、もみじ等を枝ごと持ち込み、花瓶に飾り季節を感じてもらっている。テーブルの配置をその都度変更し、利用者同士が互いに居心地良く過ごせるように努めている。花好きの利用者が多いので、職員は自宅で花を咲かせてから事業所へ持ち込んでくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごす事が好きな人、一人は寂しい人、話好きな人、聞き役の人と個々の思い、皆様が居心地よく暮らして頂ける様に戸別に支援をさせて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、お茶碗・マグカップ又家具等のご家族様が入所時に持ち込まれ、利用者様と配置されます。ぬいぐるみ・ご主人様の仏壇を持って来られている利用者様もおられます。	利用者はそれぞれ自分の大事な物を居室に飾っている。例えば、配偶者の写真、学生時代に作製した日本人形、友人から贈られた手編みの招き猫等がある。職員は、花好きの利用者の部屋に、生花を飾ってあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で動線に物を置かない、歩行器、車椅子の置き場所等危機感を持ち環境を整えた上で、出来ない部分のみの介助で自分で出来た事が自信になり活動範囲が広がるような自立した生活を支援しています。		